

# JAIわて平泉の自己改革の取り組み

## ～食と農を基軸とした地域に根ざしたJAを目指して～

JAIわて平泉は10年先も20年先も組合員・地域の皆さまから親しまれ、信頼されるJAづくりを目指して自己改革を進めています。JAIわて平泉がこれまで果たしてきた役割を再認識しながら地域の農業とくらしになくてはならない組織となることを目指し、農業・くらし・経営の3つを柱に取り組んできた自己改革の一部を紹介します。

3  
つ  
の  
柱

### 1. 農業

#### 農家組合員の所得増大と農業生産の拡大

消費者の信頼に応え、安全・安心な農畜産物を供給する持続し続けるいわて平泉農業の確立に向け、黄金の郷づくり推進対策事業などを通じて担い手の育成と組合員の農業所得確保・増大に取り組みます。

### 2. くらし

#### 地域の活性化と結びつきの強化

食と農を基軸に、総合事業を通じて地域の生活インフラの一翼を担い、地域に根ざした協同組合の確立とくらしの活動の展開で地域との結びつきの強化に取り組みます。

### 3. 経営

#### 組合員に評価される組合経営

自ら取り組むJA改革の推進と組合員・地域住民との結びつきを深め、財務基盤の強化と健全な経営基盤の確立で、信頼される協同組合としての存立に取り組みます。

## 1. 農業



### 出向く活動

#### 那須さんに聞きました

新規卒者等就農促進支援事業を活用し、1年間の研修を終えて今年就農しました。繁忙期は日々の作業に追われ情報を得ることが難しく困っていました。その時にTACやセンター長に声を掛けてもらいサポートしていただいてとても心強かったです。補助事業の内容についても分かりやすく教えてもらい経営内容に適した指導をしていただきました。また、地域の方とのつながりを作ってもらえたことがとても大きな財産です。一人では出会えなかった人と出会え、話をすることが来年の活力につながっています。

#### 担い手農家

東山町長坂  
那須 一樹さん(33)

経営内容 トマト10a



## 「黄金の郷づくり推進対策事業」牛舎増改築による増頭助成

千葉さんに聞きました

増頭を考えていましたが牛舎が足りないため、規模拡大ができませんでした。資金面のアドバイスを受け、増築費用を抑えることができ母牛4頭を増頭できました。こまめな指導をしてもらうことで事業利用や規模拡大、導入に至るまでの環境を整えてもらい、私の代で増築することができたので継承についても将来的な見通しが立てられ安心することができました。今後も家族で力を合わせて購買者に喜ばれるような牛を生産したいです。



### 和牛繁殖

川崎町門崎  
**千葉 胤明さん(62)**

経営内容  
 和牛繁殖 母牛10頭  
 育成1頭 子牛6頭



## 「黄金の郷づくり推進対策事業」経営規模拡大助成(新規)

小山さんに聞きました

新規就農にあたり施設の建設など初期費用についての不安がありましたが「黄金の郷づくり推進対策事業」により費用を抑えることができたことがとても大きかったです。また、<sup>かんすい</sup>灌水作業時に土壌の質により水持ちが違うことなどを指導してもらったおかげで病気などを未然に防ぐことができました。また、栽培地区に適した台木の情報など、この土地にあったきめ細やかな営農指導で2年目、3年目への基盤づくりができました。



### トマト生産者

大東町曾慶  
**小山 健さん(30)**

経営内容  
 トマト15a  
 冬期間はハウレンソウ5a



## ・取り組み事項

### ○実需者との顔の見える結びつきの拡大

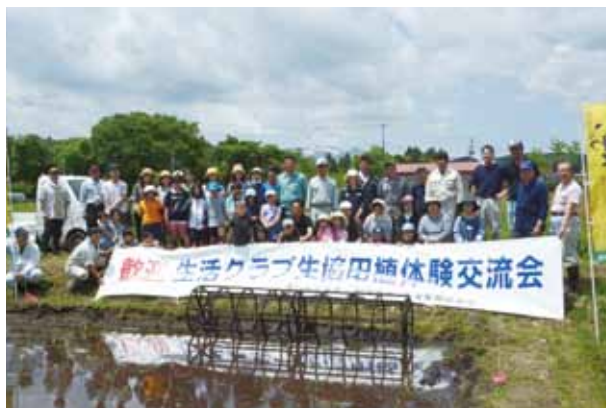
トップセールスや販売応援キャンペーンの実施と、田植え・稲刈り体験による産地交流会等を行っています。

### ○集落組織への園芸品目の導入推進

平成26年度の10組合で12品目を栽培し販売金額36,879千円から29年度は11組合で11品目を栽培し販売金額42,335千円と栽培品目を絞り数量・販売金額を伸ばしています。

### ○冬春期の換金作物の導入で周年出荷体制の確立

野菜農家の冬場の収入減少対策として無肥料体系による寒締めハウレンソウをハウス所有者へ推進し、露地品目は寒締めハクサイやネギを勧めており冬春の収入確保へ務めています。



## 2. 暮らし



### 食農教育や青年部活動、女性部活動を通じた地域との関わり

食農教育支援  
ちやぐりんキッズフェスタ  
JAまつり

JAいわて平泉  
女性部

部長  
佐藤 幸子さん

JAいわて平泉  
青年部協議会

会長  
那須 俊裕さん



食農教育活動などを通して、命の大切さや、安全・安心な食べ物の理解と農業を学んでもらいたいです。昔は農業に触れ合うことで野菜が育つ過程や、旬の時期など多くのことに気付き学ぶ機会がありました。子どもたちが地域の方との



触れ合いや、土に触れる感覚を大人になっても忘れず、農業について考えるきっかけになればと思います。また、女性部の活動を通して地域の方たちと一緒に取り組みながら、地域とのつながりをより強くしていきたいです。

現在では核家族化が進み昔のような人との触れ合いが減少しています。子どもたちが食農教育を体験することで食に感謝し命の大切さを学ぶと同時に、親にも地域とのつながりを感じてほしいと思います。そして子どもたちが大人になり、次代へも食と人とのつながりの大切さを伝えていってほしいです。青年部活動を通じて地域の方や消費者と触れ合うことが、農業と地域の活性化につながるののでより地域に密着した形で地域全体を盛り上げていきたいです。



## 3. 経営

### ○事業改革検討プロジェクトの立ち上げ

事業改革検討プロジェクトは総務管理改革作業部会、信用共済事業改革作業部会、営農畜産事業改革作業部会、経済事業改革作業部会の4作業部会で構成されます。作業部会はワーキンググループを構成し、組合長の諮問する事項や役員・職員の疑問・提言等に関する事、各部門の現状分析、事業改革検討を進めます。第2次中期経営計画に掲げる「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」「地域の活性化と結びつきの強化」「組合員に評価される組合経営」の3つの最重点施策の具現化を図るとともに、平成32年度より取り組む次期3カ年計画の素案策定を目的としています。